

平成 25 年 4 月 17 日

フードアナリスト 3 級 (二次試験) 小論文について

【ご案内】

この度は 3 級修了試験合格おめでとうございます。修了試験合格後の流れとして、合格通知がお手元に届いてから 1 ヶ月以内に、二次試験（小論文）の提出をしていただきます。3 級養成講座、または通信講座合格の方のみ、ご提出いただけます。郵送もしくはメールにて提出して頂き、採点の結果 二次試験 に合格された方は、フードアナリスト 3 級資格認定者となります。（3 級認定証はこちらで小論文を受理してから 1 ヶ月以内に郵送にてお送り致します。）

小論文のタイトルについては 3 級教本の章・節に関連したタイトルを選択して頂き、小論文の作成に臨んで頂きます。

【注意事項】

原稿用紙は（社）日本フードアナリスト協会規定のものを使用してください。

下記 URL からファイル（Microsoft Word 2003 バージョン）をダウンロードして御記入いただいても結構です。<http://www.foodanalyst.jp/doc/ronbun.doc>

原稿用紙ヨコ 3 枚以上（1200 字）以上ご記入ください。

Word に入力し提出していただいても構いません。

原稿用紙内に 会員番号 氏名をご記入ください。

小論文作成のすすめかた

【小論文タイトルの設定について】

3 級教本の章、節のタイトルから（食育・食空間コミュニケーション・ホスピタリティ・食と栄養・ワインとチーズ・ヨーロッパ菓子・食と芸術 文化・インテリアとテーブルデザイン・日本の伝統と食文化・地球環境と食、および各章に付随する節）の中からメインテーマを選択し、小論文のタイトルを作成してください。

タイトル例： 現代家庭における食育の必要性、日本におけるワインの歴史、「食と文学、村上春樹作品にみる食の特徴」等、 章・節のタイトルにアレンジを加えて、小論文タイトルを作成していただいても構いません。

【採点基準】

小論文の採点は以下のことを考慮して評価致します。

< 1 >

文章について

(1200 字の中に以下に挙げたようなことが 10 ヶ所あった場合、内容にかかわらず不合格になります、また記入の指示に従わない場合は、論述の内容にかかわらず、その程度により評価を下げることがあります。)

- ・誤字、脱字はないか、上手でなくても良いが丁寧な字で書いてあるか？
- ・字数制限は守っているか？（指定文字数は書くこと、文字数が少ない場合は不合格になります）
- ・用語の間違え、文法的なミス（例：「ら」抜き表現など）はないか？
- ・「です・ます」調になってないか？（「である」調にすること）
- ・「私」と表現するところを「僕」などと書いてないか？
- ・一文が長すぎないか？
- ・体言止めや比喻などの詩的、哲学的表現をしていないか？
(小論文には凝った描写などは一切不要)
- ・主述関係がきちんとしているか？（長い文章になればなるほど主述関係がずれてくる）

規定の文字数、内容を審査し基準に達した方を合格とします。

合格基準に達しない場合には、不合格とし、再度提出（1 回目の提出後から 1 ヶ月以内）をしていただきます。

採点基準としては選択したテーマについての充足度、論述の具体性、記述内容の妥当性、論理の一貫性、見識に基づく主張、洞察力・行動力、独創性・先見性、文章作成能力などを評価の視点とし、論述の内容に応じて評価します。

< 2 >

内容について

- ・テーマがしっかりとらえられているか？

教本の内容、他資料やデータに基づく場合、それらの資料の趣旨を読みとり、正しい問題提起ができるか？ここで、資料の趣旨を読み間違えると、ピントのずれた小論文になり、いくら内容が良くても評価は低くなります。

- ・設定したテーマに対して自分の意見が述べられているか？

小論文とは基本的に与えられたテーマに対して、自分の意見（Yes、No）を提示する文章です。例えば「食育について述べよ」という課題に対して、食育に対して思いついた意見を並べるのではなく、食育に対して、自分は Yes なのか No なのかを理論立てて主張していくのが小論文であることをしっかりおさえておいて下さい。

・論理的、客観的に述べてあるか？

自分が提示した意見に対して、なぜそのような主張をするのか、ということを論理的、客観的事実に基づいて述べているか。単なる独りよがりの内容になっていないか。

・幅広い視野が見られるか？

様々な角度から問題をとらえ柔軟な思考と幅広い観点で物事をとらえることができるか。

・以上で書いてきた内容をふまえて、自分だったらどのような活動・提言を行うかを具体的に述べているか？

結論の部分で自分の理念、目指すべきフードアナリスト像、具体的な活動を入れると内容に厚みが出ます。

・構成はしっかりしているか？

読みやすい構成になっているか。

良くある構成として、(起・承・転・結)の4部構成、(序・破・急)の3部構成が書きやすい。具体的な4部構成の例としては

(ア) 問題提起、(イ) 意見提示、(ウ) 展開、(エ) 結論 などがああります。

以下、もう一度、簡潔に採点基準をまとめておくと

- (i) テーマの把握 (正しくテーマを読みとっているか)
- (ii) 表現力 (主語・述語・誤字・脱字・字数制限)
- (iii) 論旨 (自分の主張) の妥当性 (論理的、客観的であるか)
- (iv) 具体性 (自分が講師になったとき、具体的にどのような教育実践をするか述べる)
- (v) 視野の広さ、柔軟性、協調性 (フードアナリストとしてのバランスはどうか)

以上の5点です。後はとにかく読みやすい文にすること。そのためには極力、一文を短くし、主述関係を意識して書くことです。さらに、できるだけ具体的な内容にし、抽象論にならないように気をつけてください。凝った表現、文体は一切必要ありません。

【提出先】

(社) 日本フードアナリスト協会 事務局

郵送先： 102-0082 東京都千代田区一番町 15-8 壺番館 5階

日本フードアナリスト協会 事務局 3級小論文担当宛

または

Eメール送付先： info@foodanalyst.jp 又は famembers@athenaios.com

メール件名に <3級小論文提出の件 名前>をご記入ください

※ ご提出後 1週間以内に受取った旨のメールないし電話が無ければご連絡ください。
(協会へ届いていない可能性があります)